

# 市民と歩む議員の会 議会報告

発行 市民と歩む議員の会 〒564-0041 吹田市泉町1-3-40 (吹田市役所内) TEL 06-6384-1231(代表)

吹田市議会議員(無所属)

ば ば

## 馬場けいじろう

みんなで創ろう  
元気な吹田!!



連絡先 〒564-0041 吹田市泉町5-3-5 TEL 06-6389-8555 FAX 06-6389-8558  
E-mail babakeijiro@gmail.com URL http://www.baba-keijiro.com

## インフルエンザなど 感染症への対応

**馬場** 今議会において、中学3年生に限定したインフルエンザ予防接種の助成について予算が提案された。この拡充については、本議会でも多くの議員から提案されてきたが、箕面市や高槻市のように生後6か月から小学6年生までの子どもを対象にすべき、もしくは高齢者の自己負担を軽減すべきという議論であった。

厚生労働省などの資料によれば、インフルエンザによる死亡率では高齢者や幼少期が高いことがわかる。65歳以上にはすでに補助があり、死亡者を減らすためなら、幼少期の子どもへの支援が妥当である。また、14、15歳はほとんど入院にはいならず、重症化を防ぐというからは中学3年生への補助は効果が低い。13歳までは2回のワクチン接種が必要であり、費用負担の軽減という観点からも幼少期への支援が妥当である。

**健康** 今回の中学3年生を対象とし、インフルエンザの接種費用の助成をしたのは、医学的な観点のみを優先したのではなく、インフルエンザへの感染により受験の機会を失うことがないよう支援する必要があると考え、実施することにした。

**馬場** 複数の学校関係者からは中学3年生を優遇することは教育上おかしいと意見を聞いている。また、この施策の検討に際し、教育委員会への相談はなかったと聞く。政策立案過程に不備があると指摘しておく。

季節性インフルエンザの年齢別罹患率および致死率



## 学校での手洗いや咳エチケットの徹底を

**馬場** 小・中学校はインフルエンザが流行しやすく、日常的な予防にも力を入れるべきである。手洗いや咳エチケットの励行は行き渡っているか。

**教育監** 校長連絡会など様々な機会を捉えて、手洗いや咳エチケットの励行に関する指導や研修を行っている。また、流行が懸念される場合には、教室の換気を心がけ、児童や生徒が触れる機会が多い蛇口やドアノブなどは消毒液を利用してふき取りを行うなど具体的な対策を示し、学校現場における感染症予防に努めている。

**馬場** 公立保育園では新型コロナウイルス対策として、朝晩の検温を求めるようになった。季節型インフルエンザ対策として、小・中学校でも検温に取り組むべきである。

**教育監** 体調がすぐれない場合は、まずは家庭での体温測定をお願いしている。学校においても、声かけや顔色の確認などにより、日常的に児童・生徒の健康状態を観察して対象把握に努め、必要に応じ検温を実施している。

## 新型コロナウイルスによる減収への支援

**馬場** コロナウイルスの影響によるイベント中止、日常活動の自粛などによって主催団体には多大な経済的な損失が発生している。中小企業支援に関する施策は散見されるが、NPO法人への支援策についての情報はあまり見られない。適切な情報を周知すべきである。また、国・府の動向にもよるが、NPO法人への無償貸し付けや給付金を検討すべきである。

**都魅** 本市には無償貸し付け等の制度はないが、大阪府の融資制度である「新型コロナウイルス感染症対応緊急資金」や日本政策金融公庫の特別相談窓口を市民公益活動センター(ラコルタ)を通じ紹介して対応している。

**馬場** NPOなどが行政と連携し、地域力の向上を実現していることが吹田の強みであると市長は示している。それが今回大変な危機に直面している。手厚い支援策を検討してほしい。

## 中核市への移行について

**馬場** 健康福祉常任委員会の行政視察で、平成30年に中核市に移行した川口市を訪問し、保健所の運営について調査した。

新型コロナウイルスへの対応として、国からの通知に基づき、中国人への注意喚起の看板を作成・掲出したことが全国で最も早く、ニュースに取り上げられたとのことで、県全体では動きが遅くなるどころ、独自に迅速に動くことができたという中核市移行の成果を紹介していただいた。

ただ、様々問題もあり、精神保健に関する相談件数が移行前からほぼ倍増したため、職員を1名増員し9名体制にしたもののまだ人員不足に悩まされているとのことだった。本市における人員配置と想定件数を示してほしい。

**健康** 現在の大阪府吹田保健所での相談件数は年間3,300件前後だが、中核市移行により市民に身近な相談窓口となることで、相談件数は増加するものと見込んでいる。

保健師および精神保健福祉士などの専門職5名を専任で配置し、日々の相談業務に対応することに加え、当事者や家族からの多様な相談ニーズにも適切に対応できるよう、精神科嘱託医や臨床心理士などによる専門相談も実施していく。

**馬場** 本市でも移行後の状況を見て、必要があれば迅速に人員確保に動くよう要望する。

### 有事に対応できる体制整備

**馬場** 川口市からは、自然災害や感染症流行のときは通常の人手では業務遂行が困難になるので、通常時から余裕を持った人員配置にすべきとの助言もあった。災害時は被災地以外の自治体からの職員派遣も期待されるが、全国的な感染症流行の際はそれも期待できない。有事を意識した人員配置は可能か。

**総務** 災害等を意識した職員体制を構築することは困難だと考えている。

自然災害であれば「吹田市業務継続計画」、感染症流行時であれば「吹田市新型インフルエンザ等対策業務継続計画」に準じて、非常時における優先業務や各職員の事務分担を明確化することで、迅速に災害時への対応業務を開始するとともに、最低限の行政サービスを維持しつつ、各部からの要請に応じて速やかに応援体制を組むことが重要であると考えている。

### コロナウイルス対策のための職員体制

**馬場** コロナウイルス対策にあたっては、どのような応援体制が組まれているのか。

**総務** 吹田市新型コロナウイルス感染症に関するコールセンターへ対応するため、各部に職員の動員を依頼し、体制を確保している。

全庁的には、今後の患者の発生状況や、各部における職員の状況などを見ながら、通常業務のうち、縮小、延期、または休止できる業務について各部で確認

したうえで、部局を超えての応援にも柔軟に対応できるように、今後の体制を検討していく。

**馬場** コロナウイルス対応で健康医療部が多忙であると聞か、他部署からの応援体制は組まれていない。職員が疲弊しないよう、必要があれば応援要請を出してほしい。

### 本市独自の動物愛護施設を設置すべき

**馬場** 川口市の動物管理施設は敷地面積494.74㎡と本市に比べ格段に大きく、ボランティアの力も借りながら犬猫は1年近く保護するそうである。また、施設内で避妊去勢手術ができる設備も整っており、動物愛護への意識が格段に高いと感じた。本市でも、本格的な動物管理施設を設置を検討すべきである。

※府内の中核市では、東大阪市、枚方市が設置済み

**健康** 本市独自の動物管理施設を設置し、運営するためには、場所の確保や近隣住民の理解、土・日を含むえさやりや散歩などを担う飼育スタッフの確保といった多くの課題への対応が必要となる。中核市移行後の市保健所の運営状況を十分に踏まえた上で、その必要について慎重に判断していきたい。

## 障害者福祉の推進

**馬場** 昨年4月より重度障害者通所型障害福祉サービス事業補助金（通称：重度加算制度）が新制度に全面移行した。その変更によって事業所にどのような変化が起きたか、4月から9月までの半年間の影響についてアンケートを実施されたということで、障害福祉作業所の方々と議員有志で懇談会を行った。

吹田市でもこのような調査を実施しているか。

**福祉** 昨年4月の加配従業者の人件費補助制度への移行による事業効果や移行の影響について、昨年末に対象事業者へのアンケートを実施した。今後もサービスの提供などの実態把握に努めていく。

**馬場** そのアンケート結果の概要を示してほしい。

**福祉** 昨年4月から9月までの事業内容について集計した。現時点で障害者への支援内容が大きく変更されるような状況は見受けられないが、将来の人員確保等に対する不安のご意見をいただいている。

### 重度障害者を受けいれる作業所への補助

**馬場** 作業所の皆さんによる独自調査では、これまで補助対象でなかった精神障害者の利用が多い就労継続B型事業所では増額となっているが、生活介護事業所では、15事業所のうち13事業所で減額。減額幅は4.4%~95.0%で、重度の利用者が多く、平均区分が高い事業所ほど大幅な減額となっている。

職員体制の見直しなどで事業者側は対応しているが、常勤の非常勤化への置き換えになり、スタッフの離職につながっている。また非常勤待遇では求人に応募がなく欠員を補充できず、残った職員にも疲弊感が増しており、さらなる離職が心配されるとのこと。

また、市の説明では、国の報酬改定によってサービス単価が上がっているのに、市の補助金を減額しても大丈夫とのことだったが、事業所側の実感としては、市補助金の減額の影響の方が大きいとのことである。

重度加算制度を組み替えるにあたり、早期に新たな制度を再構築すると関係者に約束していたが、検討状況を示してほしい。

**福祉** 重度障害者のさらなる受入れ促進策について検討を進めており、本定例会において、障害福祉サービス事業所の新規開設等を行う事業者への家賃補助制度、医療的ケアが必要な重症心身障害者の送迎車両の購入費用への助成制度を提案している。

### 福祉サービスを担う人材の確保策の拡充を

**馬場** 各事業所とも人材確保に苦慮している。待遇改善のための支援策が必要ではないか。

**福祉** 様々な障害特性や増大するニーズに対応するためには、人材の確保が非常に重要であると認識している。処遇改善については引き続き国に要望するとともに、人材確保策について、事業者と情報交換しながら、重層的な施策を検討していく。

## いずみの園公園の リニューアル

**馬場** メイシアターに隣接するいずみの園公園のリニューアルの予算が提案されている。南吹田駅周辺の公園整備について地域住民とのワークショップを行うなど、公園みどり室の姿勢を評価していたのだが、いずみの園公園については地域住民や市民の声を集約することがなく、とても残念である。

**土木** 文化会館の開設時の公園設置目的である「会館利用者の集いと憩いの場」を基本に、文化会館に寄せられた利用者の要望と今後の活用方法を念頭において

計画したものである。公園の立地条件などその特色を生かすべく、文化および地域イベントなどでも活発に利用される公園になるよう新しい施設配置を行う予定である。

### 随意契約での事業者選定に問題はないか

**馬場** 予定金額1億円の工事であるが、施工業者の選定は随意契約で行なわれるとのことである。原則競争入札で実施されるべきであるが、正当性について説明してほしい。

**土木** 文化会館改修工事に併せて施工することで工期が短縮され、文化会館再開後の工事が回避でき、会館利用者の危険、不便が回避できることなど利点がある。

また、付帯工事とすることで設計金額の節減が図られるため、「吹田市随意契約ガイドライン」で定める競争入札に付することが不利と認められるときに該当するので、進行中の文化会館改修工事の請負者と随意契約を行うものである。

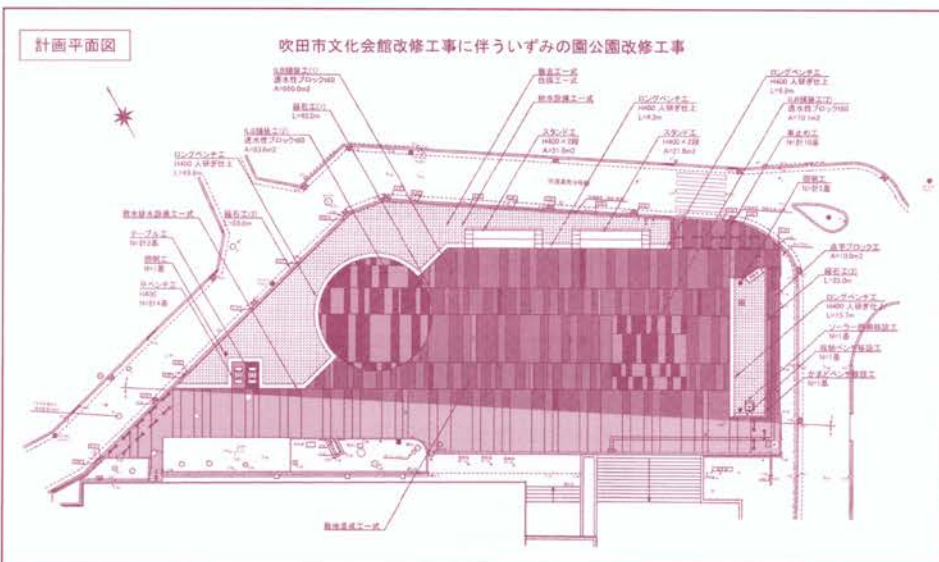
### 市内の連携不足による提案の遅れ

**馬場** 平成27年9月議会にメイシアター大規模改修についての一回目の予算提案があった際、いずみの園公園も改修した方がいいと私自身が進言していたので、改修工事が実施されることは評価している。

ただ、なぜ平成30年11月議会で2回目の予算を提案した際に、いずみの園公園についても同時に提案されなかったのかが問題だと考えている。そうすれば、市民の意見を集約する時間的余裕もあったし、随意契約という疑いをもたれる方法をとる必要もなかった。なぜ今になって提案されることになったのか。

**土木** 同公園のあり方を検討する中で改修の方向性を定め、一定段階まで進捗したため今回の提案に至った。

**馬場** メイシアターの大規模改修にあたり、メイシアターを所管する都市魅力部と、いずみの園公園を所管する土木部の連携が不十分だったのではないかと。



せせらぎを撤去するなど、植栽地と広場の割合を30対70にし、イメージを刷新します。各種イベントが開催しやすくなります。

**副市長** 今年度（2019年度）に入って両部を中心に市内で十分に連携を図り、公園の活用方法について議論を重ねてきた結果、予算提案に至ったものである。

**馬場** 動き出すのが遅い。平成27年の私の指摘以降、検討が行われていなかったことが問題である。市内の連携が図られるよう市長がリーダーシップを発揮してほしい。

## 「お口の健康体操教室」の拡充

**馬場** 65歳以上の高齢者の方を対象に、お口の健康体操教室が千里ニュータウンプラザで月に一度実施されている。口腔機能の低下の予防を目的とした事業だが、参加希望者が多いと聞く。

口腔ケアは健康づくりの基本であり、開催回数の増加や市内の他の地区での開催なども検討すべきである。

**健康** 市の補助事業として実施しており、毎回定員40名に対し2倍を上回る申し込みがある。

口腔機能の低下は、体に必要な水分や栄養摂取の低下を招き、健康状態にも大きく影響するため、口腔ケアの方法や知識について広く啓発することが、健康寿命の延伸につながるとされ、口腔ケア事業の拡充の検討が必要と認識している。

お口の健康体操教室も含め、どのように口腔ケア事業を実施していくか、検討していく。

## スポーツによる健康増進や地域活性化

**馬場** スポーツによる健康増進や地域活性化等の取組が求められており、そのためには施設や指導者などスポーツ環境の整備が必要となる。

オリンピック種目でありながら、本市には練習場所がない競技もある。以前から要望のあるアーチェリー、今回新競技として追加されたスケートボードなど、新たな練習場の必要性についてどう認識しているか。

**文スポ** スポーツの普及や振興にあたって、様々な競技において十分な活動場所を確保することが望ましいと考えている。市民からの需要を注視しながら、既存施設の有効活用や多目的に利用できる施設の整備など、可能な限りの検討をしていきたい。

**馬場** 本市では36の団体が吹田市体育協会に所属し、行政とも連携し、スポーツ振興にご尽力いただいているが、近年は新たなスポーツ団体も設立され、体育協会に所属していない場合もある。新たな団体とも連携を強化し、活動支援を行うべきである。

**文スポ** 現在でも本市の後援を受け、大会を開催している団体もあり、引き続き連携を図りながら、活動を支援できるよう検討していく。

### 部活動の支援

**馬場** 子どもたちに関わるスポーツ環境の整備も重要である。学校の部活動において顧問の先生が見つからず廃部になるケースへの対応が、議会で何度も取り上げられてきた。

現在、女子サッカー、柔道、剣道で実施されている「種目別拠点校」の拡充が解決策の一つとして考えられるが、検討状況を示してほしい。

**教育監** 新たな活動拠点における条件整備や、現拠点校の入部状況等を鑑み、継続可能な設置・運営について検討する必要がある。

**馬場** もう一つの解決策は、大阪府が積極的に導入を

進めている「部活動指導員」の導入である。本市の独自制度である部活動指導者とは違い、顧問になることができ、教員の負担軽減の効果も期待される。

**教育監** 先行して制度化している自治体から効果と課題等の情報を得ながら、各校の部活動の実態を踏まえて、部活動指導員の導入に向けて検討している。

**馬場** 導入に向けての課題があれば示してほしい。

**教育監** 技術指導の他に、大会等への引率、保護者への連絡、事故が発生した場合の現場対応など、教員の顧問と同等の責任が生じることにより、人材の確保が難しくなると聞いている。

### ネーミングライツで得た資金の活用

**馬場** 現在、女子サッカーの拠点校へのコーチ派遣についてはスポーツ推進基金の一部を充てている。

以前の議会答弁では、吹田市積立基金条例で定められた基金の設置目的に合致しないとの理由で、サッカー以外のスポーツに関する事業に基金を活用することはできないとのことだが、部活動の支援はスポーツ推進とまさに一致することであり、Jリーグの理念である豊かなスポーツ文化の振興と心身の健全な発達とも合致する。

サッカー以外の部活動への指導者派遣や体育・部活のための備品購入などにも充当できるよう、条例の文言を追加・修正してはどうか。



**文スポ** 女子サッカー拠点校へのガンバ大阪のコーチ派遣については、基金の使途目的にある「ホームタウン関連施策の推進」に基づいており、部活動活性化への支援が主たる目的ではない。

現時点では条例の改正については検討していないが、引き続きどのような活用方法があるのか協議検討していきたい。

### 〈その他の質問事項〉

- ・オリンピック・パラリンピック教育について
- ・会計年度任用職員制度について
- ・庁内でのハラスメント防止について

**健康** = 健康医療部長

**都魅** = 都市魅力部長

**総務** = 総務部長

**土木** = 土木部長

**福祉** = 福祉部長

**文スポ** = 文化スポーツ担当理事

5月定例会は5月28日から6月29日まで開催予定

⇒「市民と歩む議員の議会報告」次号は7月中旬に発行予定です。

### 馬場けいじろうプロフィール

昭和52年9月28日生まれ

西吹田幼稚園、吹田第二小、吹田第六中、東大寺学園高校、早稲田大学政治経済学部卒

平成27年4月 吹田市議会議員 初当選（現在2期目）

### 〈議会での役職〉

健康福祉常任委員会委員長 議会運営委員会委員

都市計画審議会委員